

研究課題	情報活用能力育成のための組織で取り組む カリキュラム・マネジメント
副題	～ICTを活用した 鍛えて発揮するかく活動を軸として～
キーワード	かくスキル かく活動 探究の学習過程 カリキュラム・マネジメント
学校名	広島市立藤の木小学校
所在地	〒738-0007 広島県広島市佐伯区藤の木二丁目2-1
ホームページ アドレス	<a href="http://www.fujinoki-e.edu.city.hiroshima.jp/">http://www.fujinoki-e.edu.city.hiroshima.jp/</a>

### 1. 研究の背景

平成 28・29 年度の 2 ヶ年、パナソニック教育財団特別研究指定校として、各教室一台の電子黒板と実物投影機、児童一人一台タブレット PC という環境下で、主体的・対話的で深い学びに向かう子供たちの育成を目指して、「ICTを効果的に活用した授業づくりの追究－授業過程に「かく活動」を位置付けて－」をテーマに取り組んだ。研究を通して、かく活動を位置付けた学習過程モデル（図1）を再構築し、探究の学習過程（課題の設定－情報収集－整理・分析－まとめ・表現）と関連付けた「身につけようかくスキル 11」（図2）を定め、かく活動の充実を図った。

2 ヶ年の取組は、見方を変えれば、新学習指導要領において学習の基盤となる資質・能力として位置付けられた情報活用能力育成に資する取組であると考えられる。新学習指導要領においては、「情報活用能力の育成には、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」とあり、カリキュラム・マネジメントに視点を当てた研究が必要であると考えた。

そこで、平成 30 年度は、本校の環境を生かした情報活用能力育成を目指す実践研究をカリキュラム・マネジメントに視点を当てて行い、これまでの取組を継続・発展させるとともに、その成果を広め、ICT活用先進校として、教育の情報化に寄与したいと考えた。



図1 かく活動を位置付けた探究の学習過程モデル  
(2018 版)



図2 身につけようかくスキル 11

## 2. 研究の目的

本研究は、児童の情報活用能力育成のための学校体制を構築することを目的とする。その要は、学校全体で児童の情報活用能力育成に資する取組を行うこと、教員一人一人の日々の授業を、児童の情報活用能力育成に資する授業へと転換を図っていくための取組を行うことである。(図3)

そのために、以下のような手立てを講じる。

- ア スキルアップタイム (金曜日朝学習 15分) : 探究的な学習過程の各段階と関連付けた「身につけようかくスキル 11」の鍛えと定着、そのための教材開発
  - イ ロングスキルアップタイム (国語) : 探究の学習過程を意図した単元構成と授業実践
  - ウ 探究の学習過程に基づく日常の授業実践  
それぞれの実践に ICT を効果的に活用する。
- また、円滑な実施に向けて、カリキュラム・マネジメント委員会で、その進捗状況を検討・評価する。

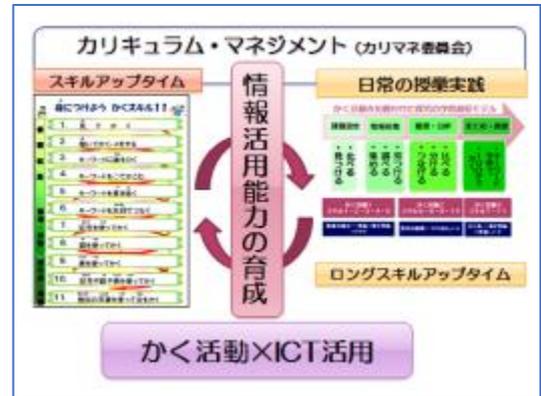


図3 カリキュラム・マネジメント イメージ図

## 3. 研究の経過

月	カリマネ委員会	ア スキルアップタイム	イ ロングスキルアップタイム	ウ 探究の学習過程モデルに基づく日常の授業実践 (授業研究会を含む)	
4	4/26 第1回カリマネ委 年間計画について				
5	5/18 第2回カリマネ委 スキルアップタイム・ロングスキルアップタイムの実施方法検討	情報収集のスキルを鍛える・かくスキル2	5/11・18 6/1・8・15・22 教師の読み上げ文を聴き、指示されたキーワードの数を数えてかく。	5/9 2H 学校視察で授業公開  5/29 2H 学校視察で授業公開	
6	6/29 第3回カリマネ委 1年ロングスキルアップタイムの学習指導案検討		7/6 教師の説明を聴き、説明通りの絵をかく。	7/12 5H 研究授業1-1 国語「きいてつたえよう」 講師：東京学芸大学 高橋純先生	6/4 1H 教育委員会実態調査で授業公開  6/7 3H 東京学芸大学高橋純先生来校で授業公開  6/18 2H 三和中学校区校長会で授業公開  6/27 2H 教育委員会計画訪問で授業公開
7					
8					
9	9/25 第4回カリマネ委 スキルアップタイムの工夫 (100字まとめの導入)	情報収集のスキル	9/7・14 10/12・19 低学年・絵を見て「誰		

10		キルを鍛える ・ かくスキル1 4 5	が何をしているか」分かるところを○で囲み、一文で書く。 中学年・・絵を見て分かることを100字でまとめる。 高学年・・授業で、グラフ等の資料を読み100字で要約する。		10/10 4H 東京学芸大学高橋純先生来校で授業公開  5 H 研究授業 6-1 社会科「明治の国づくりを進めた人々」 講師：東京学芸大学 高橋純先生  10/22 5H 計画訪問で授業公開
11	11/20 第5回カリマネ委 公開研究会研究発表の検討	情報収集のスキルを鍛える  かくスキル3 4 5	11/2・9・16 12/7 短文を読み、キーワードとなる言葉に線や○をつけて書き抜く。	11/22 5H 研究授業2-1 国語「同じところ、ちがうところ」 講師：教育委員会指導主事	11/16 5H 学校視察で授業公開  11/25 5H The 17 <sup>th</sup> ICT 活用公開研究会で研究授業 3-1 社会科「わたしたちのくらしのものをつくる仕事」 4-1 算数「広さを調べよう」 5-1 算数「正多角形と演習の長さ」(プログラミング学習) 6-1 国語「町の未来をえがこう『町の幸福論 コミュニティデザインを考える』」 講師：東京学芸大学 高橋純先生
12	12/11 第6回カリマネ委 4年ロングスキルアップタイムの学習指導案検討				
1	1/29 第7回カリマネ委 ロングスキルアップタイムの日常化の検討(学習過程モデルシート作成)	整理・分析のスキルを鍛える  かくスキル9	1/18 2/1・8・15 3/1 2つのものを比べて、同じところと違うところを見つける。	1/18 5H 研究授業4-2 国語「目的や形式に合わせて書こう」 講師：常葉大学 佐藤和紀先生	1/18 2H 常葉大学 佐藤和紀先生来校及び学校視察で授業公開
2	2/26 第8回カリマネ委 取組の振り返り				2/8~2/22 探究の学習過程モデルシートを活用した授業公開(全学級)  2/26 2H 三和中学校区校長会で授業公開
3	3/12 第9回カリマネ委 次年度構想				
年間	・年間 9回実施		・年間 20回実施 ・20教材作成 ・100字まとめシート作成	・年間 3単元開発と授業研究 ・公開研究会 1回実施	・年間 5単元授業研究 ・公開研究会 1回実施 ・年間一人当たりの授業公開 12回程度

平成30年12月1日に、今年度の実践事例も掲載した、書籍「藤の木小学校 未来の学びへの挑戦II『鍛えて発揮する』主体的・対話的で深い学びを実現する かく活動×ICT活用」(監修：東京学芸大学 准教授 高橋純)を出版し、取組の普及に着手した。

#### 4. 代表的な実践

##### (1) ア スキルアップタイム

スキルアップタイムは年間 20 回実施した。そこで活用する教材を研究部が 20 教材作成した。平成 31 年 1 月からは、整理・分析のスキルを鍛えている。整理・分析の観点を「比較」とし、2 つのものを比較できるデジタルワークシートを作成し活用している。

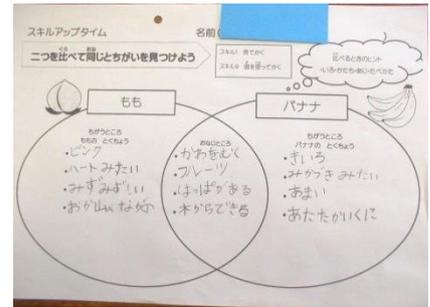


図4 スキルアップタイム デジタルワークシート(1年生)

##### (2) イ ロングスキルアップタイム

ロングスキルアップタイムは、年間3回実施した。1 回目の単元開発を研究主任が行い、校内授業研究会で提案した。探究の学習過程を、**みつける** (情報収集)、**くらべる** (整理・分析)、**まとめ** (まとめ・表現) のカードで黒板に明示すること、探究の学習過程を 30 分で行い、残りの 15 分で本時でつきたい力が身に付くよう、フラッシュ教材など ICT を活用して鍛えるということに留意して行った。

学習過程	学習活動 (15分)	かくスキル かく活動	〇実例
1 単元の振り返り	「聞く」と「読む」の仕方で大事なことを探り続ける。		〇聞く」と「読む」の仕方のポイントを振り返られるように、動画時にポイントを指示する。
2 情報収集	つたえかためいしんになろう。		〇つたえかためいしんになるためには、 1. 書かれたことを書き写さなければいけないこと。 2. 正しく書かなければならぬこと。 のふたつをおさえる。
3 ウォーミングアップ	フラッシュ教材で、4つの言葉を出し、その中で違う種類の言葉を1つ見つける。		〇書かれたことをイメージしながら読み取れるように、違う種類見つけのフラッシュ教材を作る。
4 活動展開	漢字の難しい例のセリフと正しい例のセリフを見せ、どんなことが書かれているかを見つけてみる。		
5 整理・分析	漢字の難しい例のセリフの、どこがどのように書かれているかを整理・分析する。		〇セリフを比較することで、 ① 大事なことを忘れず伝えること。 ② 聞いている人がよくわかるように伝えること。
6 まとめ・表現	整理・分析したことをもとに、正しく伝えるためのポイントを考える。		に活用できるようにする。 〇フラッシュ教材で確認し、全員が正しく伝えられるようにする。
7 振り返り	フラッシュ教材で、伝えるときの文型の練習や大事なことを忘れず伝える練習をする。		
8 残りの問題を解く	伝えるときに大事なポイントに〇でかこむ。	思考力 キーワード を〇でかこむ。	③ ④ 正しく伝えなければならぬ大事な言葉に赤丸をつけ、相手によくわかるように伝え方をしているようにする。

図5 ロングスキルアップタイム 学習指導案



図6 ロングスキルアップタイム 板書

##### (3) ウ 探究の学習過程モデルに基づく日常の授業実践

ICT を活用した探究の学習過程モデルに基づく研究授業を 5 回実施した。各授業では、情報収集で活用するデ

デジタル資料集、整理・分析で役立つデジタルワークシートを作成するなどした。

<10月10日実施 6年社会科「明治の国づくりを進めた人々」より>  
 課題設定：「開国によって明治の人々はようになっていったのだろうか。」

情報収集1：  
 グラフ (TPC) を読み取り、予想を書く。



情報収集2：  
 テキスト (教科書) を読み取り、確かめる。



整理・分析：  
 キーワードを並べ替えて流れを整理 (TPC) し、確かめる。



まとめ・表現：本時の学習を100字でまとめて書き、発表する。



学校視察等で、年間一人当たり12回程度授業公開をした。その際の教員も、電子黒板、デジタル教科書、実物投影機、TPCを、授業のねらいや方法に応じて活用した。

一方で、学習過程モデルに基づく授業づくりにはまだ慣れていないようであったので、日常化を進めていくために、平成31年1月に学習過程モデルシートを作成した。そのシートに沿って手書きで授業プランを作成し実践することをねらった。2月には全員がそのシートで探究の学習過程に基づいた授業を行った。授業プランを作成するのにかかった時間は15分位で、「書きやすかった。」「考えやすかった。」との声もあった。

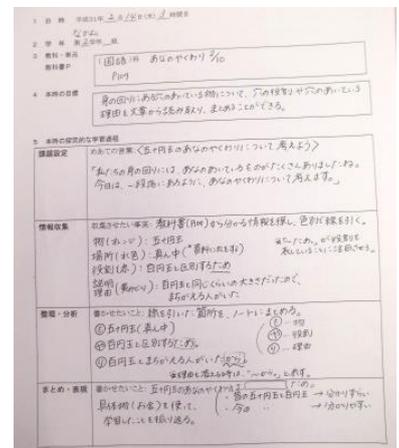


図7 学習過程モデルシート

## 5. 研究の成果

研究の経過で示したように実践を積み重ねたことが、成果である。また、今年度本校に着任した教員が、公開研究会で研究授業を行ったことも、継続・発展に繋がる成果である。

(1) 「身につけようかくスキル11」アンケート結果より

表1 身につけようかくスキル11 児童の肯定的評価の割合(全校児童平均)

学習過程との関連	スキル	平成29年度末(H30. 2月実施)	平成30年度末(H31. 2月実施)	比較
情報収集のスキル	見てかく	98.9%	97.4%	
	聴いてかく	92.8%	91.2%	
	キーワードに線を引く	92.3%	93.8%	
	キーワードを○で囲む	85%	94.8%	9.8ポイントアップ
	キーワードを書き抜く	82.2%	89.7%	7.5ポイントアップ
整理・分析のスキル	キーワードを矢印でつなぐ	57.8%	88.7%	30.9ポイントアップ
	記号を使ってかく	62.4%	87.6%	25.2ポイントアップ
	図を使ってかく	90.1%	88.1%	
	表を使ってかく	56.4%	90.7%	34.3ポイントアップ
まとめ・表現のスキル	記号や図や表を使ってかく	49.2%	73.2%	24ポイントアップ
	教科の言葉を使って文をかく	72.9%	89.2%	16.3ポイントアップ

昨年度末と比較すると、整理・分析のスキルに関連するかくスキルの肯定的評価が伸びていることが分かる。これは、教師がそれらのスキルを使ってかく活動をしっかり行ったからだと考える。結果、児童のスキルを鍛えることができたといえる。

(2) CRT学力検査(国語)結果より

平成29年度末(H30 1月実施)に実施した結果と、平成30年度末(H31 1月実施)に実施した結果を経年比較すると(昨年度1年生と今年度2年生)、平均得点率の全国比が5学年中3学年において上がり、2学年は変わらなかった。特に今年度6年生においては、17ポイント伸びた。観点別得点率は、書く能力は、5学年中2学年が上がり、1学年は変わらず、2学年が下がったものの、話す・聞く能力は、全ての学年で上がり、読む能力も5学年中4学年で上がった。特に読む能力は、今年度3年生において17ポイント、4年生において22ポイント、6年生において30ポイント上がった。

これらのことから、取組を通して、聞く・読むといった情報収集に関連する力が伸びつつあるのではないかと考える。

## 6. 今後の課題・展望

児童の情報活用能力育成のための学校体制を構築するという点では、一定の成果が得られた。今後は、児童の情報活用能力の育成に繋がる質の高い授業実践を日常的に展開し、評価できるよう、常に新たな視点をもって研究を進めていきたい。

## 7. おわりに

研究をご指導くださった東京学芸大学 准教授 高橋純先生、研究をご支援くださったパナソニック教育財団に心から感謝申し上げたい。この機会なくしては、書籍の出版を果たすことはできなかったと思う。ありがとうございました。

## 8. 参考文献

- ・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 東洋館出版社 文部科学省 2018年2月28日